

安藤君の批評に答へて

三 矢 重 松

先刻寛さんからお話があり、唯今安藤さんのお話もあつたやうであります。言葉が違つても同じ意味になることがあると云ふことは、私の申し様が悪かつたので、私の考は本義としての話であります。それから私の趣意をちつと御了解にならぬ處もあつたやうですが、私は「うしはく」と「しらす」とは、井上先生のような意味の違いはないと思ひます。「しらす」と云ふことは統治すると云ふことであるし、「うしはく」と云ふことには統治の意味が少しもない。其點に於ては比較すべきものではない。比較すべからざるものを比較して、さうして雲泥の差がある、水火の差があるとは云へない。そんな違つたものならば、雲泥も水火もないと思ひます。雲と泥と水と火は大變違つたものでありますから、さう云ふ風に云ふならば話にならぬと思ふのですが、梧陰先生の説はさうでないと思ひます。矢張り統治の仕方に於て、高い低いの差があると見られたものゝやうに思ひます。私の考はさうなのであります。本義が違ふ。「うしはく」と云ふことには統治の意味は無い。唯うしはいて居る處を天孫の降臨の時に於ては統治して居たのでありませう。大國主として相當にやつて居たには相違なかつたでせうけれども、「うしはく」と云ふこ

どには統治の意味はない。

それから天照大神の史實に就ては甚だむつかしい問題でうつかりは言はれませぬ、たゞ「天地の大御神達が船を御守りになる」と云ふ中には、私共は天照大神などは、どうも御這入りにならうとは想像出来ませぬ。今一つ私能く了解し兼ねましたが、安藤君のは或は私の考と違つて居りますのでございませうか、どうでせうか、奈良朝時代には「しらす」と云ふ言葉、「しろす」と云ふ言葉、もう一つ「しろしめす」と云ふ言葉が、天皇の統治と云ふ言葉になつて居る。それが平安朝の言葉になると、無論「しらす」と云ふ言葉は無くなることは當り前で、「しろしめす」と云ふ言葉に固定してしまつて、天下を統治する動作に用ゐられる、それより外には用ゐられて居ない。語源は「しろす」の「しる」も、「しりたまふ」の「しる」も同じ言葉であるけれども用ゐられない。天皇以外に「しろしめす」と云ふ言葉は用ゐられない。それが用ゐられて居るのは、「御承知になる」、「御知りになる」と云ふ意味なので、其の意味での「しろしめす」は一般の貴人に用ゐられません、けれども統治の意味には用ゐられない。そんなやうな事の意味であります。

